

# 『アジア社会文化研究』投稿規程

(2015 年度改定)

## 1. 『アジア社会文化研究』の目的

『アジア社会文化研究』はアジア社会文化研究会において発表・議論された成果を中心に編集される論文集であり、2000 年 3 月の創刊以来、これまで年 1 回のペースで刊行されている。同研究会は、アジア研究にかかわる者が専門分野の枠をこえて学際的に討論し研究の幅を広げることを目的に、広島大学大学院総合科学研究科に所属する教員および総合科学研究科と国際協力研究科の大学院生を中心に運営されている。

## 2. 投稿資格

原則として本研究会の目的に適い、本研究会にて発表した者とする。なお編集委員会（ならびに院生の場合には当該指導教員）が質的に掲載に十分値すると認めた論文の投稿申し込みを受理し、掲載の可否については厳正な査読制度の下で掲載の可否を決定することとする。

## 3. 論文集完成までの過程

- (1) 投稿希望者は 9 月 30 日までに所定の用紙（「投稿申込書」）で申し込むこと（電子メールによる添付書式も可。「申込用紙」の書式については研究会に問い合わせること）。
- (2) 投稿希望論文の提出期限は 12 月 1 日までとする。
- (3) 投稿希望者は本年度の研究会において、投稿論文の主題に沿った発表を少なくとも一度以上行わなければならない。ただし海外居住者や遠隔地に居住する者、また長期に渡り海外での調査活動に従事している場合などは、編集委員会での審議を経たのちに、レジュメ等の提出で発表に代える。
- (4) 発表と投稿論文の提出を終えた者から随時、査読制による審査を受け、そこでの結果により、掲載の可否が決定される。

- (5) その後、編集作業（投稿論文の加筆・修正を要請することがある）を経て、翌年の3月末日に刊行する。
- (6) 本誌は原則としてその内容を広島大学学術情報リポジトリにおいて発行次年度に公開するものとする。

#### 4. 執筆要項

##### (1) 掲載論文の種類および分量

- ①論説：16000～20000 字程度（400 字詰め原稿用紙で 40 枚～50 枚程度）
- ②研究ノート：12000 字程度（同 30 枚程度）
- ③研究動向・調査報告・資料紹介等：8000 字程度（同 20 枚程度）
- ④書評：4000 字程度（同 10 枚程度）

##### (2) 要旨について

上記①に関しては、執筆者の責任において英文による要旨(200words 程度)を提出すること。

##### (3) 書式等

原則として「ワード」横書き（34 字×30 行）で、本文を記述する言語は日本語に限る。なお、引用など必要に応じた他言語の使用は認める。なお、規定の書式から著しく外れたものは投稿を受理できない場合がある。

##### (4) 原稿の提出方法と提出先

投稿希望者は上記①～④に該当する原稿を「ワード」またはテキストファイルで作成し、編集委員会宛に以下のものを提出すること。

- (a) 電子メールの添付ファイルもしくは USB など
- (b) 印刷したもの 1 部（直接・郵送いずれも可）

なお投稿申し込みが受理された場合、投稿者は編集委員会の指示に従うものとする。

## 5. 書式の設定

### (1) フォント・文字サイズなど

タイトル	MS ゴシック フォントサイズ 11
章見出し	MS ゴシック
	1. 2. 3. ... (全角, フォントサイズ 10)
節見出し	MS ゴシック
	(1) (2) ... (半角, フォントサイズ 9)
本文	MS 明朝 フォントサイズ 9
数字・英文	章, 節見出し以外は全て「Century」
脚注	文末脚注 脚注番号は「アラビア数字」で設定
参考文献	必要に応じて「注」の後に別途に掲載
連絡先	論稿末尾に執筆者の電子メールを記載 (希望者のみ)

### (2) ページ設定

「ワード」：ツールバーの「ファイル」→「ページ設定」にて設定

文字数と行数	余白	用紙サイズ
文字数 34	上 30mm	用紙サイズ A4 印刷の向き 横
	下 30mm	
行数 30	外 20mm	
フォント MS 明朝	内 25mm	
フォントサイズ 9	とじしろ 0	
段数 1	ヘッダー 15mm	
	フッター 17.5mm	
横書き	印刷の向き 袋とじ とじしろの位置 横	

### 問い合わせ（編集委員会）

水羽信男（広島大学大学院総合科学研究科教授）

nmizuha@hiroshima-u.ac.jp

アジア社会文化研究会 : asiasyabunken@gmail.com

アジア社会文化研究会 ML: asiasyabunken@googlegroups.com

## 広島大学学術情報リポジトリ 『アジア社会文化研究』

[http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/list/HU\\_journals/AA11472506/--](http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/list/HU_journals/AA11472506/--)

創刊号からのデータが公開されています。ご活用ください。

### 執筆者紹介（掲載順）

李 郁蕙	広島大学大学院総合科学研究科准教授
荒見 泰史	広島大学大学院総合科学研究科教授
桂 弘	広島工業大学情報工学部准教授
国谷 哲資	元新聞記者
飯塚 靖	下関市立大学経済学部教授
木戸 調	北海道大学大学院教育学院博士課程後期
水羽 信男	広島大学大学院総合科学研究科教授
田 荆	広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期

## 英文要旨

### From *Dngsa* to *Qipao*: Representation of Mandarin Gowns in Taiwanese Literature in the 1940s

LEE Yuhui

The acceptance of Mandarin gowns in Taiwan before World War II was explored in their representation in the literary works of the 1940s. Previous research shows that Mandarin gowns were converted into a symbol of ethnic identification because of the influence of Japanese colonial rule. However, other representations were found in the literature analysis. Mandarin gowns before World War II were called *dngsa*, and were considered a spectacular luxury item. After World War II, Mandarin gowns were called *qipao* and became symbolic clothes worn by Mainland Chinese newcomers near the end of the Chinese Civil War. Therefore, the continuity of Mandarin gowns from the Qing Dynasty should be considered when tracing the historical development of Mandarin gowns in Taiwan. At the same time, the political manipulation that caused such transformation and the sensibility of the writers who were puzzled by the change but gave unique meaning cannot be overlooked.

## Aṅgulimāla and “*mala*”

ARAMI Hiroshi and GUI Hong

The Chinese word “*zhiman* 指鬘” means a wreath or necklace(鬘) made of fingers (*shouzhǐ* 手指). It is disturbing to imagine the shape of a *zhiman*, which is a translated word from Chinese. Aṅgulimāla, the bloodthirsty killer who appears in the biography of the Buddha, wore a *zhiman* as an ornament. For centuries, the story of Aṅgulimāla, who was at last transformed by Buddhist austerities from a bloodthirsty killer into a Buddhist have received much attention. The story also had a significant influence on Buddhism missionary work in China. In this paper, we will not discuss the story of Aṅgulimāla. Instead, we discuss the new concepts of those Chinese words, such as “鬘,” “摩羅,” “魔,” “末利,” and “茉莉,” from a linguistic angle, which changed during the translation history of Buddhism.

## 編集後記

『アジア社会文化研究』第20号をお届け致します。

昨年度19号の編集後記を読むと「本誌の編集作業では、海外の現地で調査を続けている投稿者にメールで原稿のやり取りをすることも多くなりました」と書かれておりました。これは、大学の業務がしだいに忙しくなり、年度末の長期休暇を利用して調査に出られる先生、学生引率などで海外に出られる先生が多くなったことによるものと思われます。そうした「海外の現地で調査を続けている投稿者」の中には、毎年調査兼学生引率を仰せつかつている私も含まれているわけで、ご迷惑をおかけしてきたことを知ることになったわけですが、今号ではついに私がその編集責任者となり、件の海外出張中に編集作業を行うという離れ技に挑戦することとなりました。

調査旅行を兼ねているとはいえ、毎年24人の広大一年生を海外に引率する「STARTプログラム」では、しばしば困難な対応をせざるを得ない「事態」に身を置くことになるため、編集作業は難しいのではないかと心配されましたが、今年度の学生は本誌の編集作業のことを想ってくれてか否か、病院への送り届けや遺失物等で奔走させられることはなく、対処に窮するような事態は起こらず、インターネット、SNSを通じて引率の合間に行ってきたこの編集作業を兎にも角にも無事終えることができました。周囲の皆さま方には深く感謝の意を表したいと思います。

ちなみに、今年度の学生引率では台湾原住民族の生活と信仰、神話について調べてまいりました。学生が主として滞在した国立中央大学の先生方のほか、専門の講義を担当してくれた研究仲間の東華大学劉惠萍教授、国立政治大学の楊明璋教授からは貴重な資料を提供いただいておりますので、折を見て本誌で紹介させていただければと思います。(荒見)





編集委員：荒見泰史（編集委員長）

関恒樹 高谷紀夫 崔真碩 長坂格 丸田孝志 水羽信男

柳瀬善治 吉村慎太郎 李郁蕙

## アジア社会文化研究 第20号

2019年3月31日

アジア社会文化研究会

広島大学大学院総合科学研究科内

E メールアドレス：siasyabunken@gmail.com

HP アドレス：http://ajiashakaibunka.blog42.fc2.com/

〒739-8521 広島県東広島市鏡山1丁目7番1号

編集委員会連絡先

広島大学大学院総合科学研究科・総合科学部 水羽信男

E メールアドレス：nmizuha@hiroshima-u.ac.jp

〒739-8521 広島県東広島市鏡山1丁目7番1号